

フルインクルーシブ教育を支える関係機関の連携

～すべての子どもが安心して学べる学校づくり～



神奈川県海老名市立有馬中学校
校長 浅井 大輔



イメージキャラクター
えび～にゃ

1. 海老名市のフルインクルーシブ教育について
2. 就学移行期における取組について
3. 成果・課題とまとめ



イメージキャラクター
えび～にゃ

フルインクルーシブ教育を支える関係機関の連携

～すべての子どもが安心して学べる学校づくり～

1. 海老名市のフルインクルーシブ教育について



イメージキャラクター
えび～にゃ

教育大綱の策定（令和5年6月）

「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名



誰ひとり取り残さない教育

【包摂性の高い教育・社会的支援の推進】

・フルインクルーシブ教育の推進

- ・不登校支援体制の充実
- ・スクールライフサポートの充実
- ・ライフスタディサポートの推進

※包摂性の高い教育とは

子どもたちひとりひとりがその個性や能力に応じた教育を受ける機会を与えられていること

神奈川県との協定締結 ― 県と市がタッグを組む ―

令和6年3月29日



令和6年3月29日

海老名市教育委員会と「インクルーシブ教育の更なる推進に向けた連携と協力に関する協定」を締結

神奈川県が
フルインクルーシブ
教育推進市町村に
海老名市を指定！

神奈川県教育委員会では、共生社会の実現に向けて、すべての子どもが同じ場で共に学び共に育つことを目指し、インクルーシブ教育を推進しています。
この度、県教育委員会と海老名市教育委員会は、「フルインクルーシブ教育推進市町村」に関する協定を締結しましたのでお知らせします。この締結により、県教育委員会と海老名市教育委員会は、インクルーシブ教育の更なる推進に向けて連携して取り組んでまいります。

【連携事項について】

1. フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践に関すること
2. フルインクルーシブ教育の普及・啓発に関すること
3. その他、フルインクルーシブ教育の推進に関すること



5

『推進ビジョン』と『5年間の取組計画』

＜推進ビジョン＞

【目的】

海老名市のすべての子どもが、
小学校、中学校でともに学べる環境の実現。



【めざす姿】

- ◇ 学級がすべての子どものホームとなり、様々な学び方が保障され、協働的な学びが行われるなど、ひとりひとりの子どもに応じた、多様な学びが実践されている。
- ◇ 学校の包摂性が高まり、地域のすべての子どもが、地域の学校であたり前に、安心して学ぶことができる環境が整っている。

6

取組計画 4つの柱



A みんなでめざす

対話や研修を重ね、インクルージョンの考え方について理解を深める。



B みんなで支える

個別の支援計画（えびなっこ支援シート）、教育支援コーディネーターの専任化、多様な人的支援により校内支援体制の充実を図る。



C みんなで見直す

各学校がフルインクルーシブな視点で学校づくりを進め、教育委員会は学級規模や学籍などの制度の見直しを図る。



D みんなで整える

学校施設や教室環境の改善を図る。

7

取組の柱A みんなでめざす



A みんなでめざす



対話や研修を重ね、インクルージョンの考え方について理解を深める。

8

対話の場の創出



制度だけでなく、関係者同士の信頼関係をつくる

対話の場：市民・保護者／教職員

市民・保護者



- 【不安・懸念】
- ・不安な気持ちがある。前例もない。
 - ・支援級・支援学校がなくなると、どうなるのか想像できない。
 - ・今、小中学校に通っている方は不安ではないか。
- 【期待】
- ・実際にどんなことをやっていくか楽しみ。知りたい。
 - ・国際的な流れであり、素晴らしい取り組みである。

教職員



- 【意見】
- ・理念は共感できる。進めるべきだ。
 - ・ビジョンが見えない。具体的なイメージがあるとよい。
 - ・誰が来てもしよいような授業があるとよい。
 - ・もっと、今の形を壊していいのではないか。
 - ・考えていくための労力・時間はどう生み出すのか。
 - ・教員の負担が大きすぎる。

9

10

対話の場：子ども・支援学校・地域

朝会（教育長から子どもたちへ）

- ・人間はひとりひとり違う存在であること。
- ・他の人とくらべることに意味はない。
- ・自己実現のために学んでほしい。



学校運営協議会（地域）

- ・こどもは学校をどう見ているか。
- ・こどもから学ぶことがたくさんある。
- ・「あたり前」も評価も見直しが必要。



えびな支援学校 保護者

- ・地域の学校の専門性が上がれば選ぶ人が増える。
- ・担当が変わっても続く支援が必要。
- ・居住地交流では友だちの声に嬉しそうなお姿。



えびな支援学校 教員

- ・学校は少しずつ変わっていく必要がある。
- ・こどもの視点に立つことの重要性。
- ・必要なときに必要な支援が受けられる体制。



11

教職員研修・市民学習会・シンポジウム

市民学習会

- 講師を招いた研修
- ・年2回（10月・2月）

シンポジウム

- 11月に開催予定
- ・小中学校実践報告
- ・参加者との対話の場

教職員研修

- 「フルインクルーシブ教育のさらなる推進に向け～人権の視点から考えよう～」
- 「みんなで考えよう！だれもが安心、インクルな学校行事」



12

取組の柱B みんなで支える



B みんなで支える



- ・ 個別の支援計画（えびなっこ支援シート）
- ・ 教育支援コーディネーターの専任化
- ・ 多様な人的支援、校内支援体制の充実



13

教育支援コーディネーターの専任化

校内支援の中核となる教育支援コーディネーターが、業務に専念できる体制を整えました。

名称の変更

- ・ 国：
特別支援教育コーディネーター
- ・ 県：
教育相談コーディネーター
- ・ 本市：
教育支援コーディネーター
(昨年度～)

役割の広がり

- ・ 相談だけでなく、様々な人をつなぐ。
- ・ 学校全体の支援をコーディネートする。
- ・ 校内支援体制の中核を担う。

専任化（今年度）

- ・ 県教育委員会の協力の後補充非常勤を配置。
- ・ すべてのコーディネーターが担任を持たない。
- ・ コーディネーター業務に専念できる体制へ。

専任化により、学校・家庭・関係機関をつなぐ連携が動き出しました。

14

教育支援コーディネーターを 中心とした校内支援体制の充実

教育支援コーディネーター連絡会 (年10回)

<内容>

- ① 情報共有
- ② ケーススタディ
- ③ 部会研究(中学校区)
- ④ 有識者による講義
- ⑤ 施設見学(R8えびな支援学校)



15

人的支援：校内を支えるスタッフ

インクルーシブ教育事業に係る人的支援を、職種ごとに配置しています。

インクルーシブサポートスタッフ

小中19校 のべ93名

- ・ 介助員から名称を変更
- ・ 通常の学級の児童生徒も支援の対象に



看護スタッフ

10名

- ・ 看護介助員から名称を変更
- ・ 医療的ケアが必要な子どもを支援



補助指導員

1日6.5時間/週5日

- ・ 学習面での支援を担当
- ・ 授業の中で個別のつまずきを支える



スペシャルサポートルーム支援員

1日6.5時間/週5日

- ・ 校内教育支援センターの支援員
- ・ 教室に入りにくい子どもの居場所を支える



16

人的支援：専門職（ST・OT）

専門職が学校に入り、アセスメントと指導・助言を行っています。

言語聴覚士（ST）・言葉の専門員

ST 2名＋言語指導員 2名

- ・特別支援学級の言語指導
- ・就学前の言語指導
- ・就学相談との連携
- ・学校カウンセラーと連携した読み書きのアセスメント
- ・通級指導教室との連携



作業療法士（OT）

今年度 1 名を新規採用

- ・一人ひとりのケース相談
- ・学級・学校全体への支援と助言
- ・環境面への働きかけ（アセスメント）



学級をホームにする



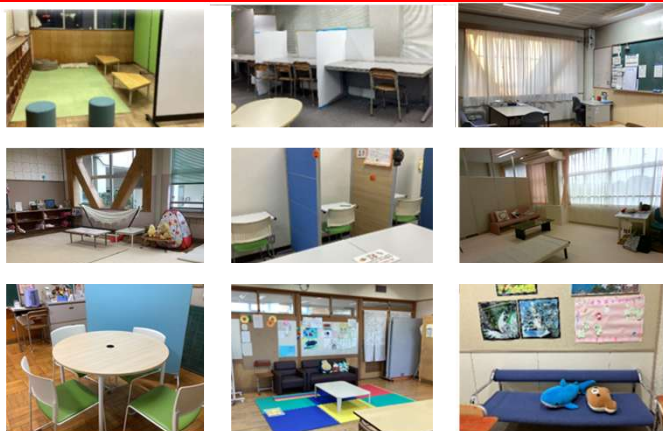
様々なリソースの充実

学級のあり方について再考

17

18

スペシャルサポートルーム・心の教室



取組の柱C みんなで見直す



C みんなで見直す



各学校がフルインクルーシブな視点により、学校づくりを進めるとともに、教育委員会として学級規模や学籍などの制度の見直しを図る。

19

20

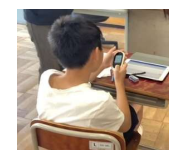
市の校長たちが考える「インクルーシブな学校」



21

「インクルーシブな学校」とは…

多様な “**学びの場**”
ではなく…
“**多様な学び**” の場

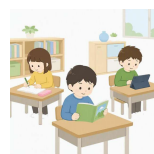


22

各学校での取組

【各校の取組一例】

- ・ひとりひとりに合った学びを実現するために、「自由進度学習」の研究に取り組んでいる。
- ・全教員が毎週1時間、支援級にかかわる時間を設け、すべての子どもをすべての教員で見る取組。また、支援級担任が学級で交換授業を行っている。
- ・学校行事の反省や振り返り時において、「インクルーシブの視点」という項目を設け、全職員の意識醸成を図っている。
- ・各学年の支援学級と学級を同じ階に配置している。



23

授業・学習評価のあり方

『だれもがともに学べる授業のための指導と評価のあり方について』



子どもの主体的な学びを進める
指導および評価方法の工夫



ともに学ぶ授業における
環境デザインの工夫

24

取組の柱D みんなで整える



D みんなで整える



学校施設や教室環境の改善を図る。

25

教室の環境整備（1）インカムの導入

○インカムの導入

学校全体でこどもを見ていく体制づくり



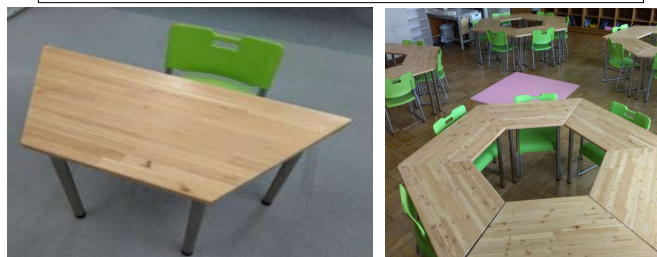
26

教室の環境整備（2）机・椅子の見直し

○小学校のモデル校1校に 台形机と軽量椅子を導入

【目的】

子どものかかわり合いを増やし、子どもどうしが
作用し合う力を高め、主体性を育む。



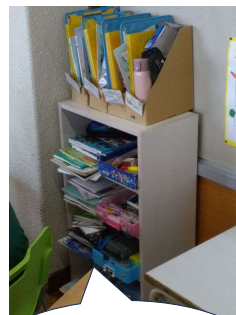
27

授業の様子① とともに学ぶ教室

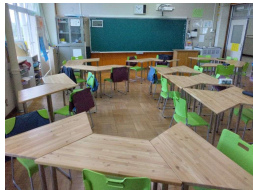


28

授業の様子② 机の様々な組み合わせ



引き出しがないため、
スタックボックスを
用意



29

フルインクルーシブ教育を支える関係機関の連携 ～すべての子どもが安心して学べる学校づくり～

2. 就学移行期における取組について



イメージキャラクター
えび～にゃ

30

いま見えている課題

保護者の不安

地域の学校で学べるのか
支援が受けられるのか
就学後の学校生活が見通せない

教職員の負担感

どう支援すればよいかわからない
情報が十分に届かないケースも
自分たちだけで抱えてしまう

就学移行期の課題

就学相談のあり方の見直しが必要
「多様な学び」の場の準備
関係機関との連携が鍵



取り組むこと：就学相談のあり方を見直し、関係機関との連携で不安と負担感を軽減する

31

取組① 小学校見学会

見学の内容

1年生や特別支援学級の普段の授業を見学
行事ではない、日常の学校生活の様子
必要に応じて学校担当者と話すこともできる

保護者の声 ※R7年5・6月は203名の参加

「入学に向けて、小学校生活の普段の様子が分かり
安心できた」「今の学校の様子が知れてよかった」



対象

未就学児の保護者と幼児

時期

5月～6月

規模

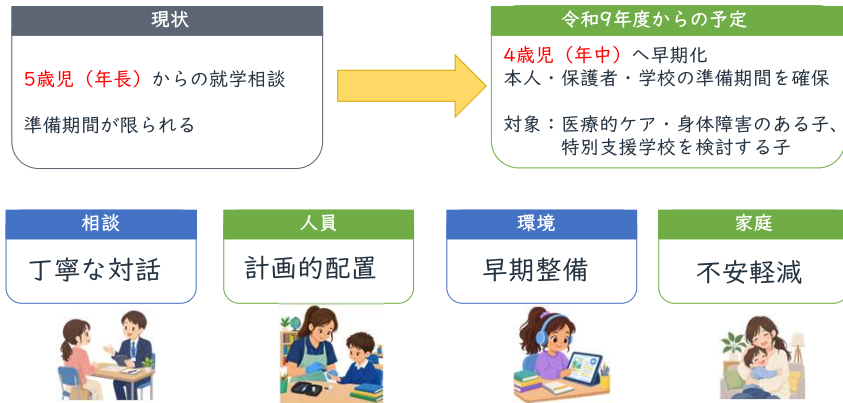
市内 全13小学校

窓口

市教育委員会

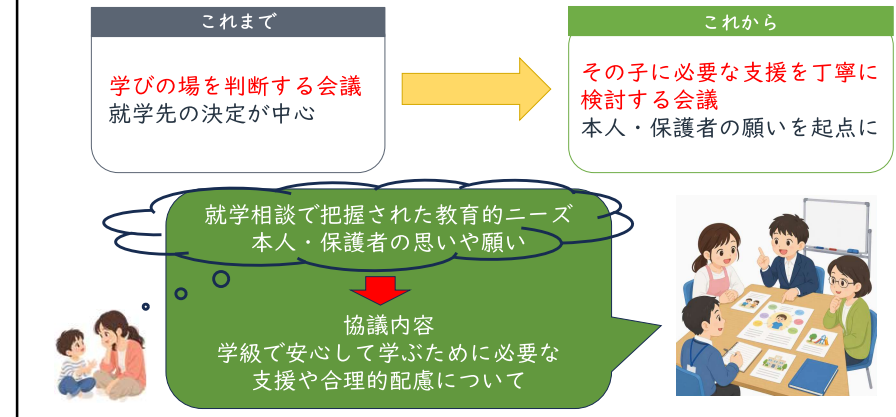
32

取組② 就学相談の早期化



33

取組③ 教育支援委員会のあり方



34

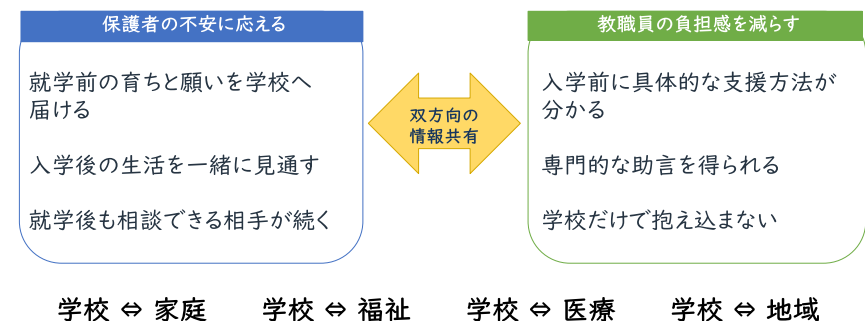
取組①②③で、安心・安全なスタートへ

取組①②③は、「入学」という一時点の準備を整える取組



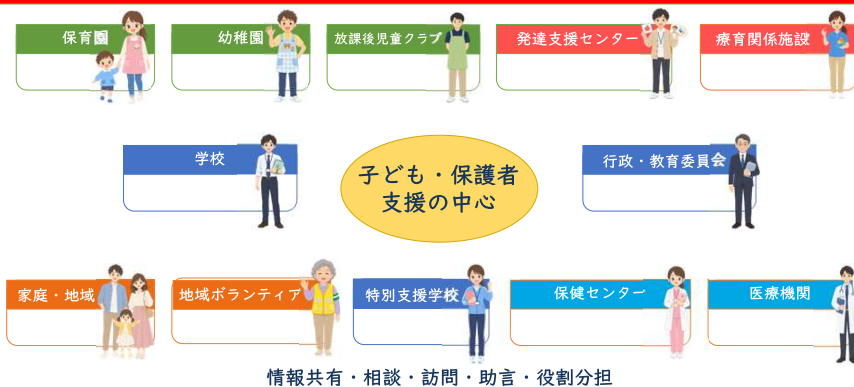
35

なぜ関係機関との連携か



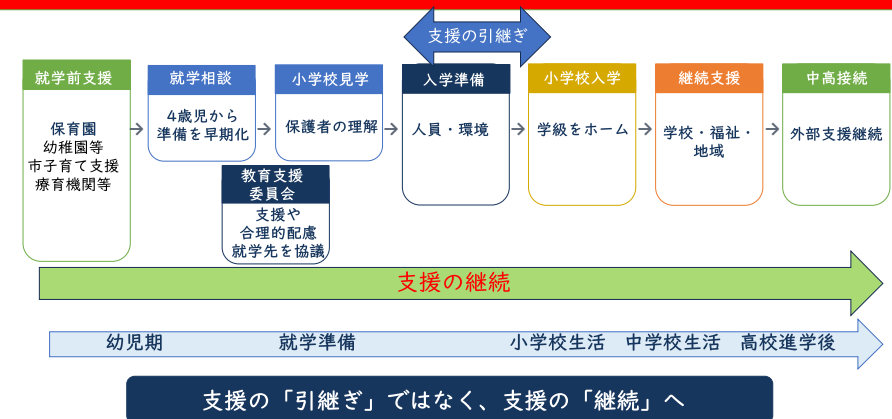
36

連携を広げるための地図



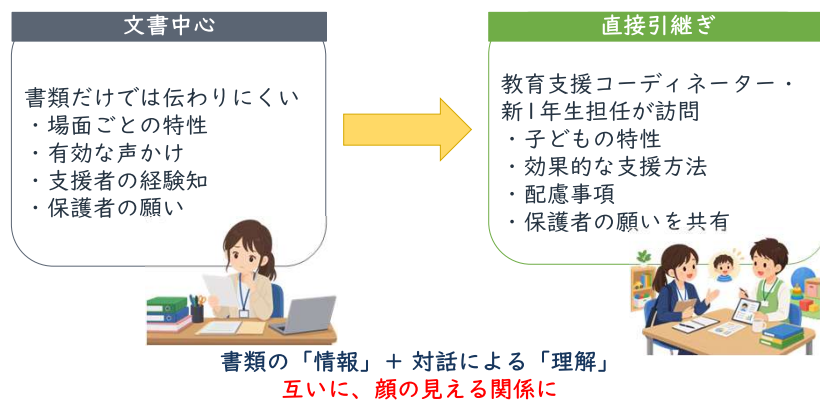
37

連携の全体像（就学前から就学後まで）



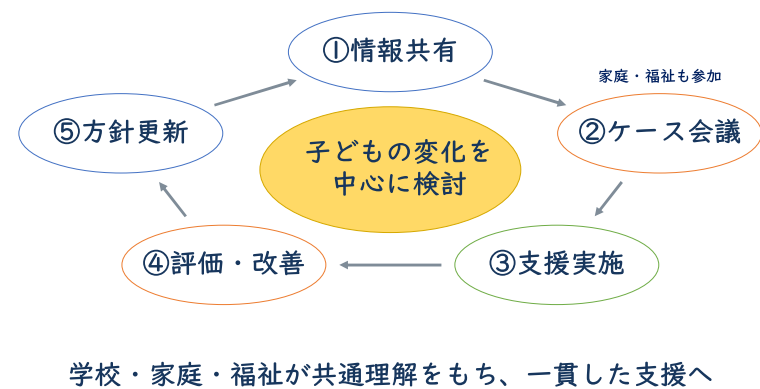
38

連携の実践① 就学前からの引継ぎ



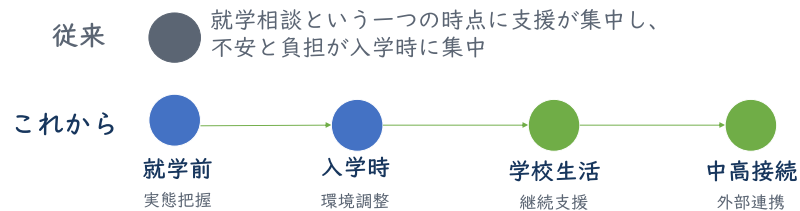
39

連携の実践② 就学後の継続支援



40

取組と連携がもたらすもの



フルインクルーシブ教育を支えるのは、学校だけではない

41



海老名市立わかば学園とは

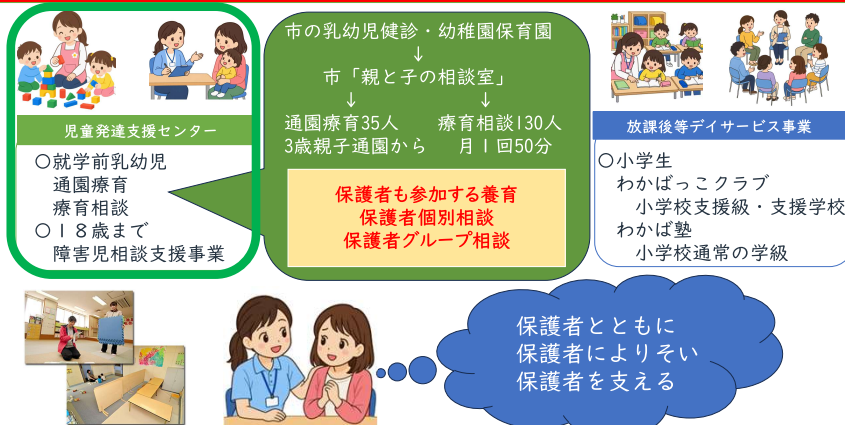


○対象者	心身の発達につまずきや障がいがあり、日常生活に難しさを抱えているお子さん
○年 齢	1歳以上で学齢まで
○開園日時	①児童発達支援事業(1歳以上学齢前の児童対象) 通園療育 : 月～金曜日の午前10:00～午後2:00 療育相談 : 随時 ②放課後等デイサービス事業(学齢児対象) わかばっこクラブ : 月～金曜日 わかば塾 : 土曜日
○方針及び内容	① 基本的な生活習慣(食事、排せつ、衣服の着脱等)の獲得を目指します。 ② 療育活動(運動、制作活動、調理、音楽活動、行事等)を通じ、経験の幅を広げ、集団活動、運動、認知、コミュニケーションおよび言葉面での発達を促します。 ③ 家族からの相談には、必要な支援や助言を行います。 ④ 必要に応じて、機能訓練、言語訓練、心理相談を行います。(通園療育児のみ)

42



わかば学園の事業① 就学前の療育と家族支援



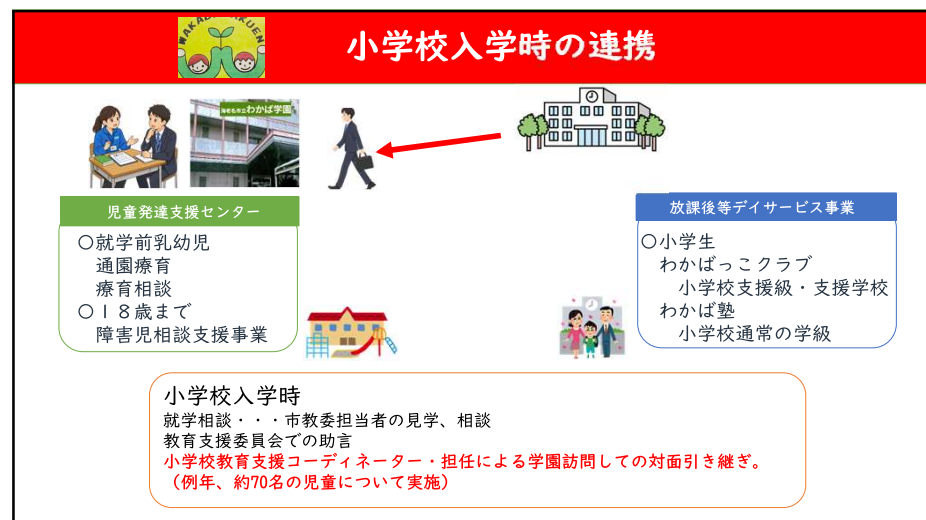
43



わかば学園の事業② 就学後の放課後等デイサービス



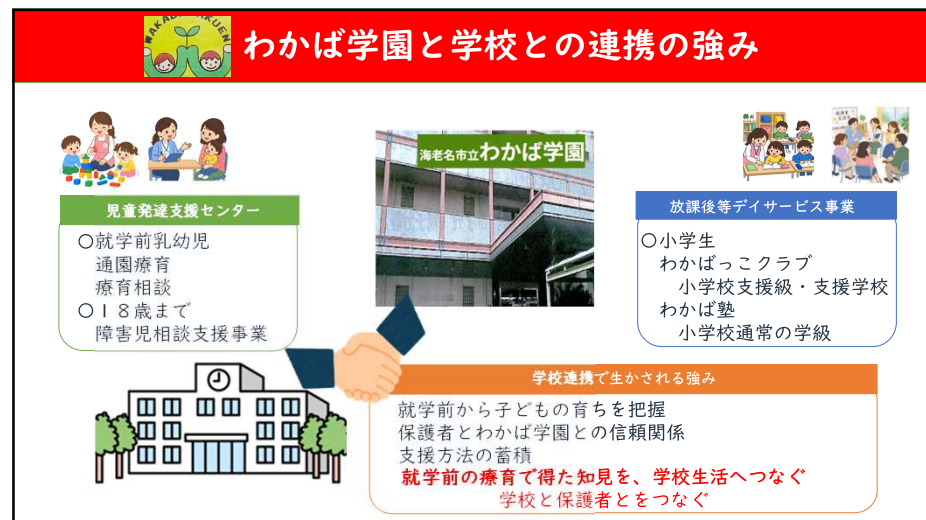
44



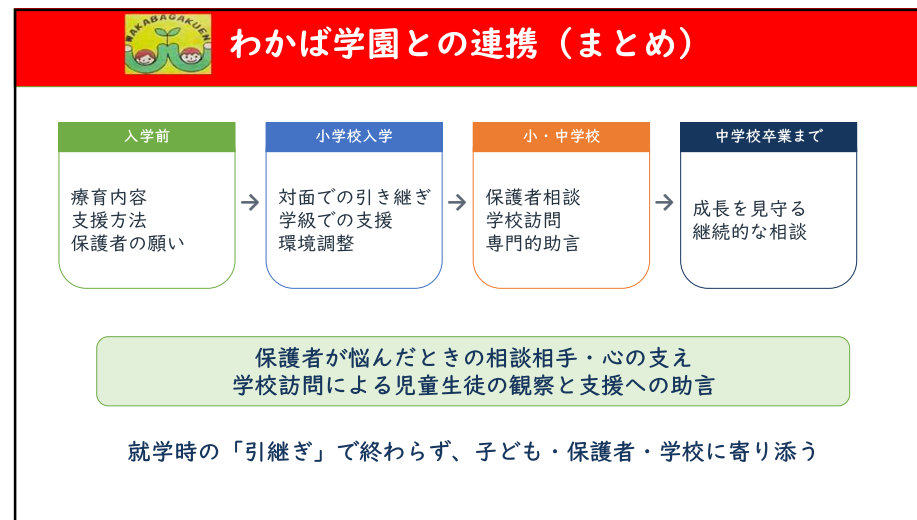
45



46



47



48

grand-mere
(グランメール)

grand-mere (グランメール) とは

県指定事業

◆ 児童発達支援／放課後等デイサービス

18歳までの障がいのある子どもたちに生活スキルやコミュニケーション能力、学習、運動など、その子に合った療育をていねいに行うことで、自立した社会生活を目指します。

神奈川県指定事業所

- 児童発達支援事業
対象児：受給者証をお持ちの未就学児
※詳細につきましては、事前に合わせてお問い合わせさせていただきます。
- 放課後等デイサービス
対象児：受給者証をお持ちの小学校入学から18歳の児童・生徒

◆ 保育所等訪問支援

保育所・幼稚園・学校等を訪問し、専門的な支援の方法を具体的に提供します。子どもの周囲の大人が皆で連携することでその子が安心して成長できる環境をつくっていきます。

海老名市指定事業

◆ 障がい児相談支援

相談者一人ひとりの状況を踏まえ、将来を見据えた相談支援・サービス計画作成を行っています。必要なサービスの提供や適切な環境づくりにつながるように、他機関等との連携も密に取りながら支援を行います。

海老名市助成事業

◆ 海老名市中高生デイサービス

海老名市在住の障がいのある中高生に、社会に出るための準備をする機会を提供します。公共の乗り物の使い方や買い物、調理など、より実践的な生活スキルの向上。読み立て作業やスタンプ押しなど、就業を見据えた取り組みを行っています。

その他事業

◆ 学習支援

得意な教科は難易度の高い問題にチャレンジ！
勉強の楽しさを感じてもらいます。
苦手な教科はスモールステップで進めることで、自信をつけていきます。
また、子どもの心の相談も行っています。

一般相談

学習支援・面談

学校訪問(保護者依頼)

49

grand-mere
(グランメール)

grand-mere (グランメール) の支援

主な事業

児童発達支援
放課後等デイサービス
保育所等訪問支援
一般相談

支援の特徴

学校等へ訪問
実際の場面を観察
担任・コーディネーターと連携
支援方法を助言

学校連携で生かされる強み

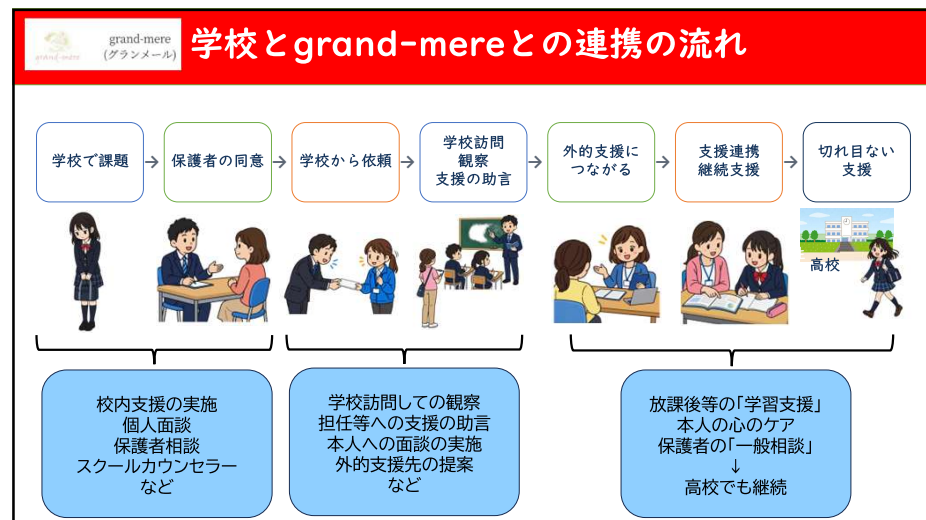
学校での支援課題に対し、専門的な見立てと継続支援

地域のサポーター（支援者）として、生徒・保護者・学校を支えていきたい。

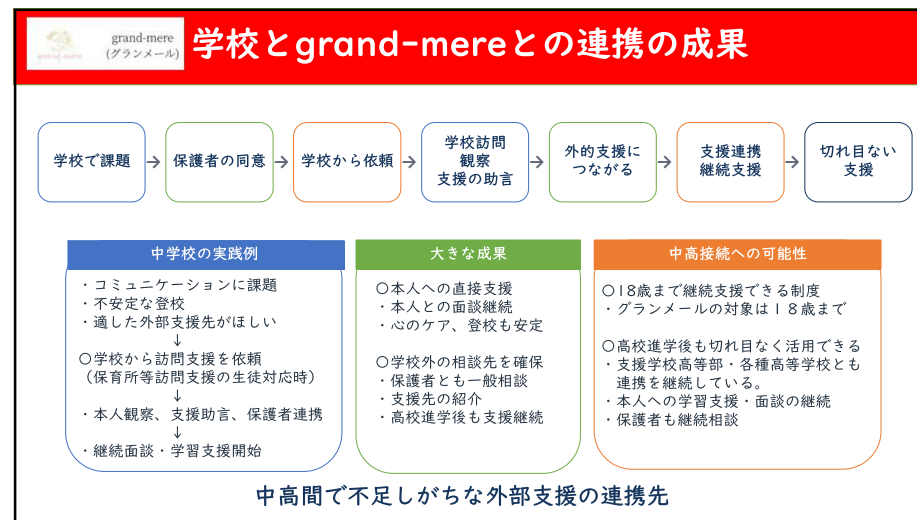
先生、ひとりで抱えないで。

子どもを別の場所へ移すのではなく、所属する場の支援力を高めたい。

50

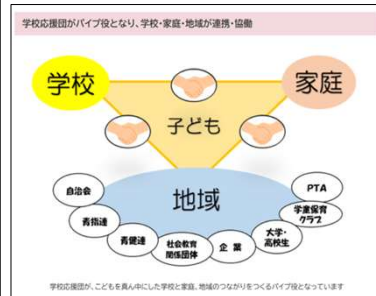


51



52

学校応援団とは



主な役割

地域人材の発掘
学校への紹介
ボランティア活動の調整

本取組での役割

学習支援ボランティア候補を
紹介
小学1年生の
各学級への配置計画を作成

人材発掘

学校紹介

配置調整

学校応援団自身も、支援メンバーとして活動

53

地域ボランティアを活用した支援体制



登録の仕組み

学校が、学習支援ボランティア
として市に登録
謝礼金あり

配置の仕組み

1年生各学級に1学期
毎日2～3名が入るよう計画
必要に応じ、行事等にも支援

学校への効果

人材発掘・配置調整を学校
応援団が担い
学校の事務負担を軽減

地域の力を、継続可能な学校支援へ変える仕組み

54

小学校1年生を支える個別支援



具体的な支援

集団になじみにくい児童への
声かけ
着替え・教室移動・学習参加



子どもへの効果

自分のペースで学校生活を開始
登校渋り・不登校の未然防止



担任・学校への効果

35人全体を見ながら個別対応
随時情報共有し、支援のぶれを
防ぐ

「学級をホームとする」ために、地域全体でこどもを支える

55

フルインクルーシブ教育を支える関係機関の連携

～すべての子どもが安心して学べる学校づくり～

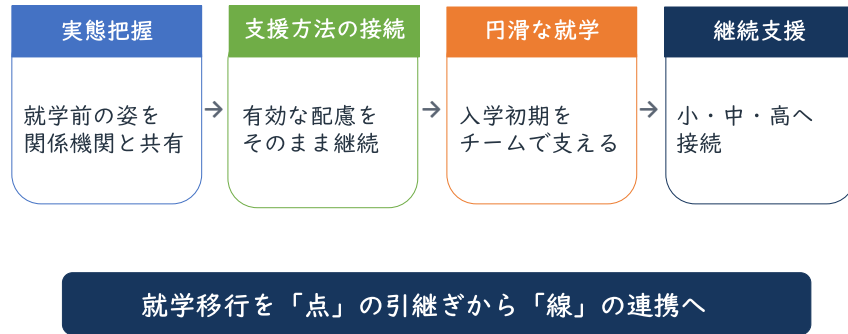
3. 成果・課題とまとめ



イメージキャラクター
えび～にゃ

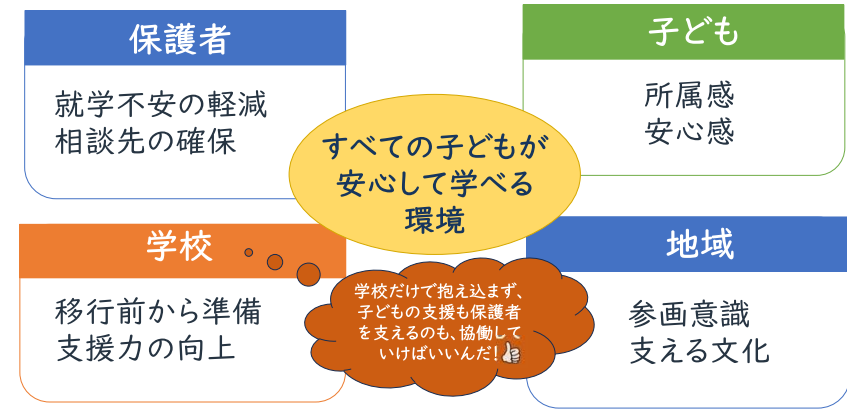
56

成果① 就学移行期の連携が生んだ切れ目のない支援



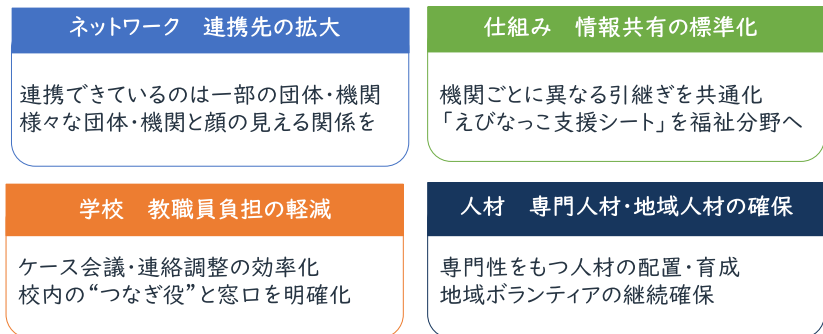
57

成果② 連携がもたらした安心



58

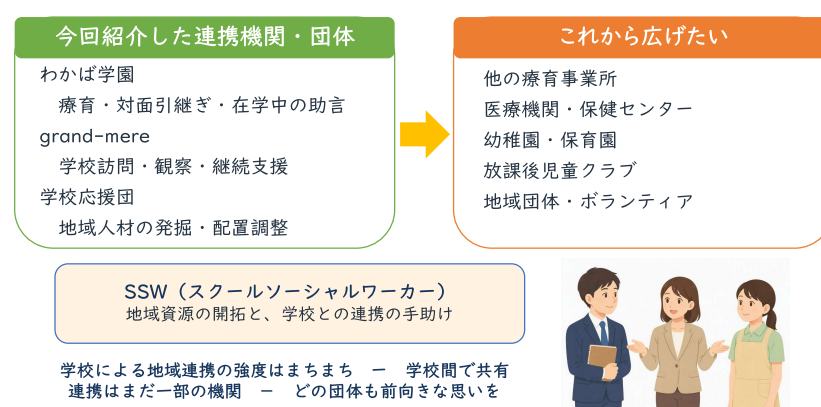
今後の課題



連携先の拡大 × 仕組み × 人材 = 支え続ける連携へ

59

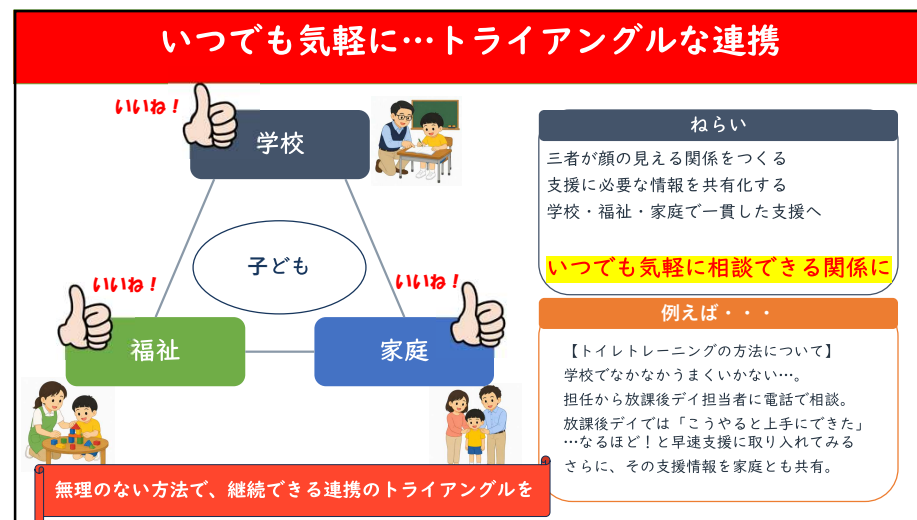
連携ネットワークの現在地



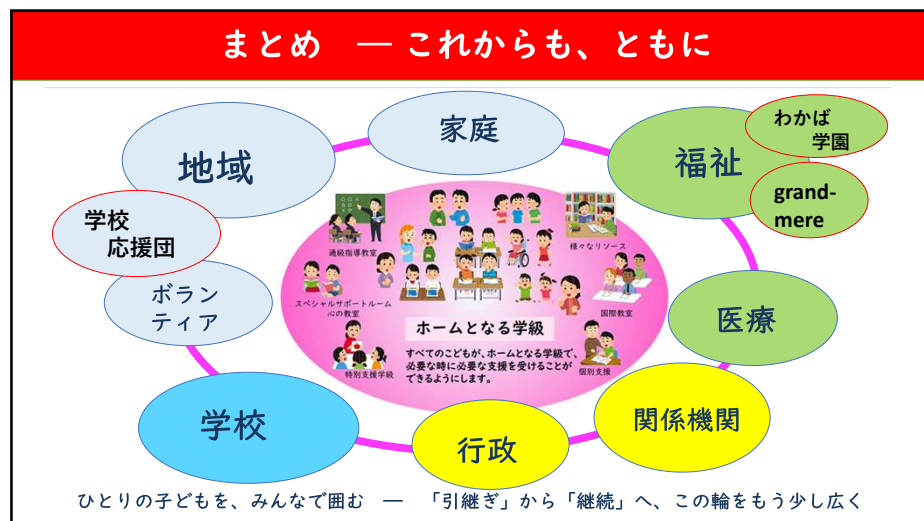
60



61



62



63



64